

## 令和元年度 学校評価報告書（総表）

令和 2 年 5 月 27 日

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属視覚特別支援学校	校長名	柿澤 敏文
幼児・児童・生徒数	173	学級数	37

2 教育目標等	
① 学校教育目標	<p>本校は、視覚に障害がある幼児・児童及び生徒に対して、障害を克服し、人間として調和のとれた発達を図り、積極的に社会に参加し貢献することができる人間を育成することを目標とする。</p> <p>そのため、幼児・児童及び生徒の有する感覚を有効に活用し、個人の自主性と個性を尊重して、社会生活における自主的な思考力・判断力並びに積極的な行動力を養い、自主的に社会に参加していくための知識・技能・態度及び習慣を養うことを基本方針とする。</p>
② 学校経営方針	<p>1) 3つの拠点構想（先導的教育拠点、教師教育拠点、国際教育拠点）に基づき、視覚障害教育を担う附属学校として、専門性の充実・発展、教育実践成果の発信に努める。</p> <p>2) 大学や他附属、関係機関等と連携して特別支援教育を推進する。</p> <p>3) 教科指導、自立活動の指導、生活指導、進路指導等を充実させる。</p> <p>4) 安全で安心して学習・生活のできる環境の整備を図る。</p> <p>5) 保護者や地域住民の協力を得ながら、開かれた学校づくりを目指す。</p>
③ 重点目標	<p>1. 個々の幼児・児童・生徒の実態や課題に応じた指導体制の整備・充実を図る。</p> <p>2. 早期教育段階における支援の充実を図る。</p> <p>3. 学校、寄宿舎、家庭の三者間の連携を密にした生徒指導に取り組んでいく。</p> <p>4. 校内研修・研究体制の充実を図りながら質の高い専門性を提供する。</p> <p>5. 国際交流教育の推進を図る。</p> <p>6. 教育実習・臨床実習・職場実習等の取り組みの充実を図る。</p> <p>7. 危機管理体制の見直し・徹底を図る。</p> <p>8. 学校運営におけるガバナンスを強化する。</p> <p>9. 働き方改革に取り組む。</p>

<p>④ 前年度（平成 30 年度）の成果と課題</p>	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学を始めとする関係諸機関と連携し、研究協議会、研究会、研修会等を通して視覚障害に関わる教育実践ならびに研究を推進した。</li> <li>・「視覚障害教育ブックレット」を継続的に発行し、教育実践・情報の発信に努めた。</li> <li>・特別支援教諭免許状認定講習における指導法の講座および教員免許状更新講習において、指導法の提供と附属学校間および大学との連携を活かした講習を実施した。</li> <li>・グローバル人材育成を念頭に教育活動を進めるとともに、アジア諸国からの留学生支援や高校生には「トビタテ JAPAN」プログラムで、タイのインクルーシブ教育の実態を学ぶとともに、タイ在住の卒業生を介して地元の視覚特別支援学校を訪問し、生徒交流を行った。</li> <li>・大学・附属学校連携小委員会を定期的開催し、障害科学域や学校教育局との連携協力を図るとともに、学生の調査・研究、教育実習、介護等体験に協力した。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育システム構築に向けての実践的検討と体制整備</li> <li>・生徒指導部や SC 等と連携した、組織的かつより丁寧な児童・生徒対応</li> <li>・ガバナンス強化の為の体制整備</li> <li>・コンプライアンスを向上させるための研修の実施</li> <li>・危機管理意識の共有と徹底。</li> <li>・校内環境の安全確保（耐震固定・連結、万年堀及び土砂災害特別警戒区域への対応）</li> <li>・学習・生活環境整備（プール・グラウンド整備、調理室設備整備）</li> <li>・教職員の勤務実態の把握及び働き方改革に向けての課題整理</li> </ul>
------------------------------	---

<p>3 重点目標達成についての総括的評価</p>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実態に応じた指導と体制： 授業の理解度に応じて、補習を実施し、面談を行うなど、所属部科内で情報を共有し、個々の学習・心理面に配慮した指導を総じて行うことができた。</li> <li>2. 早期教育支援の拡充： 育児学級の開催などを通して早期教育を実施した一方、幼稚園に出向いた支援拡充は途上である。</li> <li>3. 生徒指導： 今年度より生徒指導係を発足させ、学校全体で組織的に取り組む認識を高め、その仕組みを構築できた。一方で、仕組みの機能化、重大事案を未然に防ぐ取り組みは、今後も重点課題として継続すべきことである。</li> <li>4. 研修・研究体制： 初任者研修、校内研修、公開講座、研究協議会などを通して、専門性の維持・発展に努めることができた。大学との連携による研究協力は、障害科学類の他に、社会科や美術の分野で始まっているが、さらに充実・発展させることが求められる。</li> <li>5. 国際交流教育： アジア地域からの留学生の受け入れ、タイへの短期留学、イギリス視覚障害関連施設への訪問などを通して、生徒同士の国際交流を行い、タイの盲学校とは、国際交流協定を締結することができた。</li> <li>6. 教育実習・臨床実習等： 附属学校の役割である教育実践を学べる場として、実習生にとって有意義なプログラム、指導を展開することができた。</li> <li>7. 危機管理体制： 管理職と協働するコア会議組織を継続し、危機管理への迅速な対応を担う校内体制をおおよそ機能させたが、決断へのプロセス、即時対応は、改善の余地がある。</li> <li>8. ガバナンス： 研修の場を複数回校内で持つことで、職員のガバナンスへの意識を高めることができたが、啓発の場は今後必要である。</li> <li>9. 働き方改革： 全職員に働き方改革に関するアンケートを実施し、ワークライフバランスへの意識を高めることができた。具体的な取り組みについては、今後も継続して行う必要がある。</li> </ol>

4 令和2年度の学校課題
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新型コロナウイルス対策に応じた在宅学習支援の充実、校内の衛生環境保全の見直し</li> <li>2. 将来構想に基づく短期的、および中・長期的な校内体制・組織の見直し</li> <li>3. 教育・工学・福祉分野等における大学や外部組織との連携による研究協力の推進</li> <li>4. インクルーシブ教育システム構築に向けての実践的検討と体制整備</li> <li>5. 生徒指導係、養護教諭・SC等と連携した組織的な児童・生徒対応、及び初期対応の在り方</li> <li>6. ガバナンス強化と危機管理意識の徹底</li> <li>7. 働き方改革に向けての実効性のある取り組み</li> </ol>
5 学校課題に向けての具体的な取り組み
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅学習支援：ICTを利用した遠隔授業及び動画配信システムの構築と効果的な授業保障 校内衛生環境：検温を含めた健康管理の組織的対応と緊急時連絡体制の構築、3密を避ける運用ルール of 徹底等</li> <li>2. 将来構想：定員未充足部科における社会的ニーズに応じた組織の見直し（短期・中期）、入試試験科目の検討（短期）、附属学校群構想における本校の使命、及び統合を見据えた組織体制の見直し（中・長期）</li> <li>3. 大学との連携・研究推進：学部を超えた横断的プロジェクトの遂行、人文・芸術系以外の工学系分野における研究協力の検討、他組織との共同研究（資格試験と点字等）</li> <li>4. インクルーシブ教育：海外におけるインクルーシブ教育実践の情報共有、通常学校在籍視覚障害児童・生徒に関わる指導教員への支援プログラムの在り方検討及びICTによる支援方法のマニュアルづくり</li> <li>5. 生徒指導：各部科、寄宿舎、養護教諭、SCの連携による迅速な情報共有と支援体制の構築、研修の強化</li> <li>6. ガバナンスと危機管理：研修会の実施、本校等で生じた事例共有と再発防止</li> <li>7. 働き方改革：業務改善に向けてのUTOSを利用した情報共有の仕組み構築、会議時間の短縮、ノー残業デー実施</li> </ol>
6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要 第51巻</li> <li>・視覚障害教育ブックレット Vol.40～Vol.42 ジアース教育新社</li> <li>・研究協議会資料集 No.16</li> <li>・寄稿 『授業を豊かにする筑波大学附属特別支援学校の教材知恵袋 教科編』ジアース教育新社 日本色彩教育研究会機関誌 Vol. 38「視覚特別支援学校小学部における色彩教育の現場から－色 of 不思議体験－」 月刊『地理』2月・3月号 「タイ・コンケン大学附属学校訪問記」 古今書院 雑誌『学校図書館』10月号 「読書バリアフリーを推進するために」 全国学校図書館協議会 雑誌『医道の日本』2月号 「ツボの選び方」医道の日本社</li> </ul>

# 学 校 評 価 （自己評価） 報 告 書 （項目別表）

令和元年度

学校名

筑波大学附属視覚特別支援学校

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-4	個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導、児童生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補足的な学習や発展的な学習などの個に応じた指導の方法等の状況	<p>基本的なアセスメントに基づき、個々の障害・発達・学習状況の実態把握に努め、個別の課題提示、グループ別指導、習熟度別指導などの対応を行った。幼児・児童・生徒の興味や関心に応じて、課題を設定し、動機付けを高めながら取り組むことによって、改善を図ることができた。</p> <p>今後は、視覚以外に発達障害などの特性のある児童・生徒に対して、他附属と連携した体制と指導が求められる。</p>
3-1-1	学校の教職員全体として生徒指導に取り組む体制の整備の状況	<p>組織的に取り組む生徒指導の在り方を検討し、研修会の実施、管理職・教員・舎指導員・養護教諭・スクールカウンセラー間で情報を迅速に共有し、互いに連携しながら対応する実践的な取り組みを積み重ねることができた。</p> <p>今後は、過去の教訓を生かし、担任のマパワーに寄らず、初期対応と組織対応によって、児童・生徒の心に寄り添いながら、問題解決に導く方法を、さらに徹底させ、教職員の意識改革を促していくことが求められる。</p>
6-1-1	特別支援学校と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習の状況	<p>今年度は附属学校教育局が実施した三浦海岸共同生活事業に小学部3名、高等部5名が参加し、活発な交流を行うことができた。また、幼稚部では久里浜特別支援、小学部では坂戸高校、中学部では附属中学、高等部では附属高校、鍼灸科と理学療法科は筑波大学の医学群の学生との交流の機会を持ち、協働して取り組む観点を深めることができた。</p>
9-3-2	教育相談体制の整備状況、児童生徒・保護者の意見や要望の把握・対応状況	<p>複数の相談窓口の周知や面談の実施、いじめや学校生活における困りごとのアンケートなどを通して、問題が深刻化する前に、対応する体制について改善を図ってきた。</p> <p>スクールカウンセラーや養護教諭と情報を共有することで、心理的ケアにおける助言を得ながら適切に対応することに努めた。</p> <p>次年度は、研修の場をさらに設け、保護者と連携しながら問題解決を図る指導の重要性について認識を深めながら、教育相談の充実を図ることを検討したい。</p>
12-1-3	大学、附属学校教育局と連携した施設・設備の安全・維持管理のための整備（耐震化、アスベスト対策を含む）の状況	<p>老朽化した防球ネットの取替、倒木の危険性のある樹木の伐採を行った。また、北側斜面に根を下ろし高速道路側に伸びた草木を一部伐採した。</p> <p>また、定期的に制震器具の点検を行い、耐震を考慮して本棚の一部を入れ替え、安全性の向上に努めた。寄宿舎では、転落防止ネットを、男子棟・女子棟の危険性の高いテラスに設置した。</p>



14-1-2	大学との連携・協力	筑波大学集中講座「視覚障害指導法」講師協力（4名）、新潟医療福祉大学「視覚障害関連施設実習」実習生受け入れ（4名）、音楽科の芸大アーツ事業への協力、研究成果発表会（障害学類学生等の卒業論文・修士論文）、研究協力（芸術専門学群「つくばアートメダルプロジェクト」）、実験協力（教育研究科「地理」実験授業）、介護等体験、障害科学実践入門（障害科学類1年36名来校）、キャンパス体験について、連携して取り組んだ。
14-1-3	先導的教育研究	各教科での教科・領域の専門性に応じた教育実践を図りながら、「視覚障害教育ブックレット」の発行や研究協議会等を通じて、視覚障害領域に携わる全国の教職員等に対して情報発信を行った。 また、視覚障害教科教育研究会講師協力（3名）、点字による英語試験（英検、TEAP、GTEC）、及び数学検定の実験・調査協力、大学入学共通テストの点字試験に関わる協力を行った。
14-1-4	教員養成・教師教育	大学、教員養成施設と連携しながら、質の高い教育実習と教員養成に取り組んだ。 免許状更新講習B、C、Dを合わせて本校で7講座を開講し、免許状認定公開講座では講師協力を行った。 理科教育では公開講座を開講し、自立活動では、障害科学類と連携して、講師協力を行った。 その他にも、算数・数学教育研究会、点字指導者研修会、歩行指導者研修会などを開催した。
14-1-5	国際交流・国際貢献	海外からの来客・情報交換・交流においては、フィリピン眼科医（6月）、国立ソウル盲学校（6月）、マレーシア教育省行政官・教員（6月）、スウェーデン王国視覚障害者協会青年部（7月）、台湾台北教育大学（7月）、プノンペン大学教育学部（9月）、台湾盲人福利共進会（11月）、マレーシア High Performance School 理事・教員（11月）による訪問があり、一方、本校からは、高等部生徒が、トビタテ留学JAPANでタイへの留学、ダスキン障害者リーダー研修でイギリスへ出向き、国際交流活動を現地の学生や支援者と一緒に実施できた。 また、視覚障害学生支援を行っている一般社団法人CWAJによる70周年記念行事を合同で開催し、アメリカンスクールの生徒とスポーツ体験活動を通して、国際交流を深めることができた。
14-1-6	社会貢献	鍼灸科併設治療室（患者数約1,700人）、育児学級ミニ講座（年2回のべ38名参加）、0～2歳児対象育児学級（年27回のべ269人参加）、目白台交流館での音楽科コンサート、高齢者健康教室、寄宿舎卒後支援講習会、さらに文京区との共同企画「医療・音楽・体操の融合プロジェクト」を実施し、職業教育課程共同で、マッサージ、音楽演奏などを行い、地域との交流を深めた。 また、地域の自治会と災害時応援申し合わせ・覚え書きを結び、災害が発生した場合に、相互に協力し合える体制を整えた。